

じんけんぼん

2022 年度第 1 号

2022.6.16 / No.181

就労準備支援室だより

あいネット就労準備支援室では、仕事やコミュニケーション、生活リズム等に不安のある方へのご相談や講座、プログラムを実施しています。就労準備支援室から、講座、就労支援プログラム、職業体験やボランティアの説明、相談員の活動報告等をお届けします。講座のスケジュール等、詳細な活動については、就労準備支援室通信〈スクラム〉をご覧ください。

就労体験

2022.3.14

柏・ひがし聖地公苑様のご厚意で就労準備支援室のご利用者様と霊苑入口の花壇のお花の植え替え作業のお手伝いをさせていただきました。

肥料を混ぜたふわふわの土に穴を掘り、青色、黄色、白色のたくさんのお花を植え、最後にジョウロでお水を撒き完成！

通りがかりの方にも「綺麗ね。」と声をかけられ、ココロもほっこりあたたかな時間となりました。



講座



2022.5.13

講座 [ちょいスポ] で柏市公設総合地方卸売市場の見学に行ってきました！

あいにくの雨でしたが、柏市経済産業部公設市場様及び柏市場総合卸協同組合様のご厚意・ご案内で、市場のお仕事・卸売業者のお店を見て回りました。

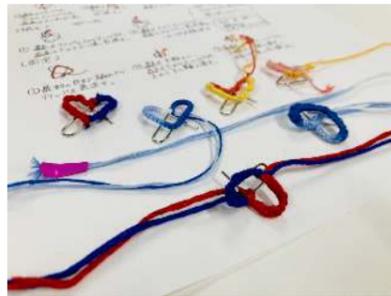
参加された皆さん、普段は見られない商品を興味津々で見、ご質問をされていました。大変貴重な経験をありがとうございました。

毎日発行！
スクラムも、ぜひご覧ください！

2022.4.15

講座 [テシゴトじかん] で「ハートクリップ作り」をしました。

クリップを曲げて糸を巻く作業に全員が悪戦苦闘しましたが、今回講師役のご利用者様がレシピを作ってひとりひとりに丁寧に教えて下さいました。それぞれ個性豊かなステキなクリップが出来ました！



就労準備支援事業のご利用について

働くことや仕事さがしに不安等がある方、面談や訪問にて相談を聞かせていただいた上で、就労に関するサポートを行います。日中の生活リズムの見直し、応募書類の確認、就労見学・体験の調整、就労プログラムや講座の実施等を行っています。

柏市内にお住まいの方を対象としています。利用は無料、秘密は厳守します。まずは、あいネットにご相談いただき、お話を聞かせてください。

他にも例えはこんなプログラム・講座があります！

パソコン講座

それぞれのご希望に合わせてパソコンの基礎から丁寧に教えます。初心者の方も安心してご参加ください。

あいネット CAFE

お茶やコーヒー等、飲み物を持ち寄って、ざっくばらんに話しましょう。

目次

2021 年度実績 報告	1
特別支援教育コーディネーター連絡協議会 報告 / ひきこもり支援伝達研修 報告	2
重層的支援体制整備事業 について	3
就労準備支援室だより	4

柏市地域生活支援センターあいネットでは、柏市から委託を受け、障害の有無や年齢に関わらず、生活でお困りの方の福祉に関するご相談をお受けしています。広報誌「じんけんぼん」では、日々の相談員の活動や報告を中心にお届けしています。ご相談いただくみなさん、関わりを持っていただくみなさんにあいネットを身近に感じていただければ幸いです。

柏市地域生活支援センター



あいネット

あいネット 2021 年度実績報告

2021 年度の新規相談は 1707 件 (月平均 142.25 件) 隣、昨年度の 2041 件からは減少しています。しかし 2020 年度以前 3 年間の平均値と比較すると約 1.7 倍となっています。昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染拡大 (以下コロナ) の影響を大きく受け、生活困窮状態の方からの相談が多くありました。

過去 3 年の新規相談件数



のべ相談支援は 18923 件になり、直近 5 年間で最も多い対応件数となっています。相談者への継続的な伴走支援等、幅広い対応ができる状況になったと考えられます。

単身者、稼働年齢層からの相談が多く、コロナによりその特徴はより顕になりました。「身寄りはいらぬが頼れない」という相談者が少なくなく、頼れる人が少ない相談者がコロナの影響を受けて困窮に陥った傾向があります。

相談内容は、コロナの影響を受けた減収や失業による経済的問題が圧倒的に多く、次いで就労相談、住まい、家族問題の順でした。

目立つ相談内容領域

- 1 経済的な相談 2367 件
- 2 就労に関する相談 451 件
- 3 住まいに関する相談 405 件

8050 問題を含んだ高齢者と子 (18 歳以上) の世帯の相談が目立ちます。コロナの影響による減収から、ひきこもり状態の子の生活費を工面するのが難しいという相談もありました。また、障害福祉相談では、地域生活支援拠点 (委託相談支援事業所) と連携が多く、触法ケースや多問題ケースにおいては、役割を分担しながら支援を進めています。

社会福祉法人 生活クラブ風の村 柏市地域生活支援センター あいネット

〒277-0005 千葉県柏市柏 5-8-12 教育福祉会館 1 階

04-7165-8707

ainet@kazenomura.jp

月 - 金曜日 (祝日除く) 8:30 - 17:30



ainet-kashiwa.net

報告 ①

令和4年度 第1回特別支援学校 特別支援教育コーディネーター連絡協議会

2022.5.13

特別支援教育コーディネーター連絡協議会は、60名を超える特別支援教育コーディネーターと中核センター等相談員によって開催される千葉県全域での協議会です。

午前は、主に全体会として、行政による「現状や施策に関する説明」、長生特別支援学校による「ライフサポートファイル活用の実践報告」がありました。

午後は、各エリアに分かれてコーディネーターの方々より昨年度の活動報告と課題等の共有がありました。それぞれの報告の後、コーディネーターの方々と中核センター等相談員で、質疑応答を含め情報交換を行いました。それぞれのコーディネーターの方々が真摯に生徒のことを考え、日々苦悩されている熱い思いを強く感じました。

次回は10月の開催が予定されています。

特別支援教育コーディネーターとは？

*文部科学省ホームページより抜粋

特別支援教育コーディネーターを校務として位置付け、学校内の教職員全体の特別支援教育に対する理解のもと学校内の協力体制を構築するとともに、小・中学校又は特別支援学校と関係機関との連携協力体制の整備を図る。

具体的な役割として、小・中学校の特別支援教育コーディネーターは、(1)学校内の関係者や関係機関との連絡・調整 (2) 保護者に対する学校の窓口として機能することが期待される。一方、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターは、(1)(2)に地域支援の機能として(3)小・中学校等への支援 (4) 地域内の特別支援教育の核として関係機関とのより密接な連絡調整が期待される。

▶ あいネット相談員のオモイ

中核センター等相談員から、卒業後（特に中高年期）の障害手帳取得の困難さの課題が話題となりました。学齢期は「取得の必要性がない、障害受容が難しい」場合でも、将来的な手帳取得等の可能性を考えて「ライフサポートファイル」の活用や、幼少期からの書類や記録の保管等、念の為に備えを行っていく必要性の共有について今後深めていきたいと感じました。

新しい事業

重層的支援体制整備事業がはじまりました！

柏市では今年（2022）度より重層的支援体制整備事業を実施しています。

2022年5月30日にその概要を説明するため市役所内の関係各課を対象に会議が開かれました。あいネットも事業受託機関の一つとして出席しました。

市民の皆様が市役所や相談機関の窓口で日常生活の困りごとや福祉の相談をされたときに、一つの窓口では対応できないことがあります。その結果、市民の皆様がどこに相談したらよいか分からなくなることが発生します。そのような時に、重層的支援体制整備事業は、以下のように機能するシステムであることを共有しました。

- ①関係各課や相談機関へ「つなぐ」窓口として「福祉の総合相談窓口」がある
- ②複合的な課題を抱えたケースはその窓口を起点に事業受託機関内で協議し支援していくことができる

「福祉の総合相談窓口」は「柏市地域生活支援センター あいネット」が担当しています。あいネットで相談を受け止めた後、柏市社会福祉協議会と連携し、地域包括支援センター、地域生活支援拠点、はぐはぐひろば、いきいきセンター、柏市関係各課等と協働し、分野をまたぐ生活課題の相談を一緒に考えていきます。各相談から見えてきた分野を超えた地域課題も地域の皆さんと協議していく体制を整えていく予定となっています。新しい取り組みが始まりますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

▶ あいネット相談員のオモイ

まだ県内でも実施自治体が2ヶ所であり事例も少なく、実際に運用してみなければわからない面も多々あることと思われます。その都度関係機関で連携しながら、市民の皆様が適切な相談や支援を受けることができるように尽力してまいります。

重層的支援体制整備事業とは？

地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する断らない包括的な支援体制のことです。相談支援、参加支援事業、地域づくり事業の各事業が相互に重なり合いながら、市全体として相談者に寄り添い、伴走する支援体制を構築していきます。

報告 ②

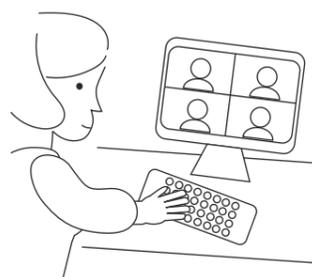
ひきこもり支援に関する法人内の伝達研修

2022.5.21

法人内の職員が参加した「ひきこもり支援に関する研修」のオンライン伝達研修に、8名のあいネット職員が参加しました。

前半は主に、研修概要、ひきこもり支援の理念、支援プログラム CRAFT の概要等の説明を受けました。後半は個人ワーク、ロールプレイを交えたグループワークなどを行いました。

今回は、それぞれの感想から報告をお伝えします。



具体的なケースを通して、実際にワーク出来、大変勉強になりました。特に本人に対してのアプローチとして受容・共感、ポジティブなコミュニケーションという事で、スキルとして短く・肯定的に言及している行動を特定・自分の感情を明確化・自分の責任を受け入れる・思いやりのある発言、をする等を学びました。

当事者の方の行動を望ましい行動と望ましくない行動に分けて考える方法を学び、なぜその行動をしたのか、行動したことでのどのような気持ちの変化があったか、その行動を続けることでのどのような変化が起こるかを突き詰めて考えられる内容となっていました。
また、当事者やその家族としてロールプレイを行い、今回体感した気持ちも今後に活かしていきたいと思いました。

ひきこもり支援の研修を受け、ロールプレイを通して、会話の状況を望ましい行動と望ましくない行動に分け、その行動がどのような結果に結びついていくのかを考えていく振り返りの重要性、本人と家族との関係性やコミュニケーション、言葉かけの大切さを学ぶことができました。

ひきこもりは、人生の断捨離で次に動きだせる、新しいスタートをきることができると思いましたが、元の場所に戻ると又繰り返してしまうかもしれませんが、新しい場所ならば何通りもの道があり自分でもいかなるにも選ぶことが可能です。
家族で取り組むことで、ポジティブな雰囲気が生まれ、新しいスタートをきるきっかけになり得るかと思えます。今回の学びを今後活かしていきたいと思えます。

ひきこもりの事例をグループ内で話し合ったり、ロールプレイで実際の関わり方を体験・共有する機会では、具体的な声のかけ方のみならず、ひきこもり者本人をとりまく状況理解の3回以上のロールプレイによって、行動スキル習得につながることで、今後もロールプレイや日常での練習機会を通して、相談支援に活かしていきたいと思えます。